

## 丹波市未来都市創造審議会（第2回） 会議録（要旨）

- 日時：平成30年6月21日（木）午後2時～
- 場所：ハートフルかすが 大会議室
- 出席者委員：
  - 識見を有する者：角野幸博委員、岡絵理子委員
  - 公募による市民：荻野美恵子委員、白滝里香委員、本庄健吾委員
  - 公共的団体の代表者：大野亮祐委員、酒井浩二委員、大谷吉春委員、吉住孝信委員、  
田中延重委員、坂谷高義委員
  - 各種団体等から選出された者：足立はるみ委員、足立由夏委員、大木玲子委員、  
十倉貫委員
  - 関係行政機関の職員：福本豊委員
- 欠席者委員：
  - 識見を有する者：北川博巳委員
- 出席職員：
  - 丹波市副市長、技監兼入札検査部長、企画総務部長、  
企画総務部政策担当部長、財務部長、生活環境部長、まちづくり部長、  
福祉部長兼福祉事務所長、健康部長、産業経済部長、建設部長、消防長、教育部長
- 事務局：
  - 未来都市創造部長、未来都市創造部都市創造課長、  
未来都市創造部都市創造課都市政策係長

議事：（1）都市の課題の整理について  
（2）丹波市の未来を見据えた都市構造について

資料：【資料1】丹波市の未来をえがく VOL.1 ニュースペーパー  
【資料2】丹波市未来都市創造審議会の進め方（改訂版）  
【資料3】周辺市町のまちづくりの方向性の整理  
【資料4】丹波市の現状と課題の整理  
【資料4 別紙】都市機能の分布  
【資料5】「丹波市の未来を見据えた都市構造」議論用資料

### 1 会長あいさつ

今日は引き続き、都市機能の再配置、あるいは集積について議論をしていただく。特に、本日は将来のまちの姿について、今後この丹波地域でどのような暮らしが展開していくのかということ踏まえ、都市構造がどうあるべきか、地域構造がどうあるべきかという意見交換ができればと思う。

## 2 議事

### (1) 都市の課題の整理について

事務局（資料3、資料4、資料4別紙の説明）

#### 【意見要旨】

委員

財政のシミュレーションが明確になっていないと感じる。やはり、財政を考える場合は人口減少とリンクしていると思う。人口減少と財政の推移を明らかにできないか。

出席職員

市としては、毎年度、財政収支見通しを作成しており、10年間の収支見通しを策定して議会に報告し、ホームページにも掲載している。これは毎年度の決算を受けて、その後の決算に基づく数値をベースに推知をしている。

財政収支見通し等、財務処理に基づいて説明する機会を頂けましたら、それに関する議論をしていただきたいと思います。

委員

一概に赤字自体が悪いということではないと思うが、赤字になることと、赤字幅が広がっていくことに危惧したので、今言われたことをお願いしたい。

会長

この審議会のミッションとの関連で言うと、財政的な見地からも機能の集約、再編が求められるだろうと思う。また、今後、老朽化するインフラをどのように再整備するかということについても、財政的な見通しを踏まえたうえでの選択と集中という議論が出てくるかもしれないということかと思う。

### (2) 丹波市の未来を見据えた都市構造について

事務局（資料5の説明）

#### 【意見要旨】

委員

地元で仕事をしていない若者が増えている。若者がこれから生活していくうえで、就業という項目が必要ではないかと考えている。

委員

「20年後の方向性」として「住みなれた地域に住み続ける」とあるが、本来、地域に住んでいる方は、住み慣れているから住んでいるだけではなく、その土地でものを生産したり、その土地を耕したりして、暮らしているということと、もう一つ、最近では「その地域の環境が好きだ」とか「こういう環境で子育てしたい」等、積極的に住みたいか

ら住んでいるという、2つのタイプがあると思う。この地域で住みたいと思っている人  
たちを積極的にイメージするような将来像が描けないか。

地域と中心部について、地域の方に65歳までのアクティブ層の人たちが住んで、中心  
部に都市的な機能が必要な人たちが住むような、暮らしの違いをイメージするような将  
来像が描けないかと思うが、皆さんのご意見を伺いたい。

#### 委員

高齢化していく中で何もしなければ、段々と人が減っていくと思う。そうならないよ  
うにするには、地域の良いところをもっとアピールしていくことが必要であるとする。  
市島地域であれば、教育というすばらしい要素があって、子どもが安心して教育を受け  
られる面がある。

また、比較的安心・安全な地域である。そして、全国で初めて有機農業を発信したま  
ちである。地域の人たちが集まって協議しながら、人口減少の歯止め策として良い施策  
をとってもらえないか、市行政に対しても訴えていく必要があると思う。

#### 委員

都市近郊に緑地があることが大きな特徴なので、都市機能の中に緑地・水辺機能も盛  
り込むべきだと思う。農業生産機能について、農業集落の機能も盛り込んだ方が分かり  
やすいと思う。文化・スポーツ機能が中心部だけに挙げられているが、これは地域にも  
あるので、両方に書くべきだと思う。観光機能のところには、観光資源だけでなく、歴  
史文化資源という言葉も挙げた方が良いと思う。

「都市機能配置のイメージ」のところで、中心部は都市機能が集約されると大きなも  
のが建つ可能性があるので、周辺の緑地や、背景に山があることがこの地域の良さであ  
ることも忘れずに、背景の山と一体的にデザインされた建物にしていくという風景づく  
りの指針のイメージがあった方が良いと思う。

#### 委員

第1回審議会の後、自治会長協議会の理事会で審議会の資料を提示して、どのような  
議論をしているかを説明したが、あまり危機感が感じられない。私の責任としては、地  
域住民の話を吸い上げて、この場に持ち込むことだと思っており、部会での話は必要で  
はないかと思う。

#### 委員

(高齢化が進めば)地域づくり活動をするにしても、我々は今以上の組織は作れない  
し、今以上の自治会活動はできないと思う。今でも役員の担い手がいない。責任を持た  
されるのではないかと敬遠される等の様々な理由があり、自治会も苦勞している。地域

づくりの機能についてどうあるべきなのか、今後の自治会を運営するためにどうすれば良いかと悩んでいる。

委員

10年前に比べて、地域を支えるべき人たちが極端に減っている。資料には「自治協議会では～様々な活動が展開されています」等と期待感のある表現がされているが、困難だと思う。このような形にしようとするれば、市が人的な介在をして、補助金だけではなく、システムを大きく変えていかなければ、周辺地域は衰退どころかなくなってしまうのではないかと思う。

委員

限界集落になりつつあることを認めてしまう前に、意識変革が大事ではないかと思う。役員のなり手がいないという問題は、女性が頭数に入っていないからでは。少し背中を押してもらえたら「やってみようか」と思う人はいると思う。

資料の中に「活躍市民」という言葉があるが、とても良い言葉であり、若い人でも、例えばIターンで来て「こういうところを変えたい」と思っている人もいれば、背中を押してもらえれば「できることがある」と気付かされて歩み出す方もいると思う。

委員

40代～50代の仕事を持っている人たちが、仕事もしながら、子育てもしながら、地域のこともしなければならぬのであれば、都会に住んでいる方が楽だと実感するようになってしまう。

若い人たちが丹波市に帰って来ないのかというと、やはり不便さがあるからだと思う。車を持たない若い子が、図書館や買い物などに行くときに親に頼らず、自分で元気に行動できるような地域にしないと、外に出た子どもたちは帰ってこない。働く場がないという問題はもちろんあるが、その辺りも考えなければ、若い人が帰りたいと思うまちにはならないと思う。

委員

柏原駅については、市外から訪れる方々の玄関口としての位置付けであることは違いないので、丹波市の観光拠点としての開発は検討していくべきだと思う。

特に、医療・福祉、商業の維持発展は都市機能の充実だけではなく、雇用維持につながるもので、これらの都市機能の集約と雇用は密接な関連性が必要だと思う。雇用が創出できれば、その地域にいろいろな人が集まってくことで、コンパクトシティが形成されていくと思う。民間と連携するとか、官民の複合施設の開発を視野に入れる等、財政的な問題点を含めて効果的な整備について、行政だけではなく、私自身もできる範囲で提案を次回から行っていきたいと個人的には思っている。

また、丹波市で人口が増加している地域は柏原と石生の地域だけだが、柏原駅、石生駅でも電車利用は減っている。そういう中で電車の本数を増やして、利便性を向上させるというのは不可能だと考える。交通は自動車利用が適していると思う。地域と中心的な機能集約地を結ぶ公共交通としてはデマンドタクシーが効果的な交通手段であり、それとバスの組み合わせた利用が一番効果的だと思う。

都市機能の集約地について、6町それぞれからのアクセスが優れた交通の要所かつ地理的な中心地であるべきだと思う。既に都市機能の一定の集積が見られるような場所と考えると、氷上インターチェンジから稲継の交差点の辺りになるのではないかな。

#### 委員

バスや電車で働きに行く手段があれば、家賃が安いところに住んで、そこからバスや電車で都会に働きに行くようになる。そうなると、地方の人口減少問題も解消される。したがって、公共交通機関に関して、高齢者だけに目を向けるのではなく、働き手が出られる時間帯に力を入れたダイヤを組んだ、バス・電車を考える必要があるのでは。

#### 委員

丹波市に住むことで、どのように満足度を高めているのか、満足度を高めるにはどうすれば良いのかということを考えることが大事ではないかな。

#### 委員

ハローワークの所長が「今は売り手市場でいろいろな働き場所があるけれども、人がいない」と言っていた。つまり、売り手側と買い手側で話がつながっていないことを、最近は特に感じる。情報発信をどこかがきちんとできれば、若者が帰って来ることも可能性があるのではないかな。

また、ハード面の施設等も大切かもしれないが、物質的に豊かになっても、最終的に人が求めるのはやはり心のつながりだと思う。近隣市町の計画を見ても、安心・安全、支え合うということをはほとんどの市町が掲げているので、丹波市としても心を大切にするような取組みが考えられるのでは。

#### 委員

「20年後のことを考えよう」という議論が各自治会でできれば、何かが変わるのではないかな。観光の視点で考えると、市外から誘客するためには、おもてなしの関係が進んでいかなければならないと感じている。

#### 委員

皆さんの意見を伺って一番驚いたのは、都市的な機能を追い求められているように感じたことである。大阪のような都市の生活を求められていて、「無いものが多いから、こんなところには住めない」という話になっているような気がする。

資料5に「週末や休日は、どこで、どのように楽しみますか？」という項目があるが、そこに書かれている「まちの姿」はスポーツ施設と多目的広場と公園施設である。本当にこれで丹波の人は楽しんでいるのか。

青垣に来た時、何ができて楽しかったかというと、学生たちは川の滝つぼに飛び込んだり、魚を釣って、その場で天ぷらにしたりしたことである。

それから、観光振興のところから出てくる「まちの姿」と、ここに住まれている方々が楽しむ「まちの姿」がきちんとリンクしていなければならないと思う。日頃から地元の方々がカフェなどされているところで、たまたまその環境を楽しみに来た方々も一緒に楽しめるような、そういう観光の将来像を考えなければならない。

#### 委員

私も、将来のまちの姿の例示は違うと思った。子どもたちが孫を連れて帰って来るとか、遠くに勤めている娘が帰って来た時に、自宅の近くで炭火を熾して焼き肉をしたり、魚釣りしたり、カニ獲りに行ったり、畑に行って夏野菜を収穫したり、そういう経験が「帰って来て良かった。ここが故郷で良かった」という気持ちになると思う。

東京や大阪の真似をしなくても良いものがたくさんあるはずである。それが記述されなければならないのでは。

#### 委員

市民プラザの役割を明確にした方が良いと思う。団体の活動を支援していくことをもう少し踏み込んで書き込んだほうが良い。

安心・安全に関しては、南海トラフ地震がこの先30年の間に発生する確率が70%と示されている。この地域は被災者の受け入れ側になると思うので、リアルにイメージして、何ができるのかということを書き込むと、具体的に納得できる計画になるのでは。

#### 委員

男女共同参画が進む中で、女性は女性、男性は男性で、あまりコミュニケーションが図れていないように思う。できる人はいらっしゃるので、その人をいかに上手くステージに上げるか、自治会長等の役割だと思う。

自治協議会と自治会はまだまだいろいろな問題点があるので、組織の見直しをはじめとした問題点の掘り起こしをお願いしたい。やはり、行政にばかりに頼っていてはだめだと思う。

## 委員

前回意見交換で都市構造の方向性としてB案（住みなれた地域に住み続ける＋中心部に都市機能を一定集積）が採り上げられたが、当然、中心部と周辺部はそういう状態にならなければならないと思う。

周辺部から中心部へのアクセスは考えなければならない。生活用品は中心部に行かなくても周辺部で購入できるような整備をしていけば良いのではないかな。

雇用については、農業や、林業で丹波ブランドを売り込むことも大切だと思っている。

丹波の魅力あるものを打ち出していく場合、JR 福知山線の複線化を推進し、大阪や京阪神方面を通勤圏にすることも必要である。それによって、人材の流出も防げると思う。

また、振興会も組織改革として副会長に女性を入れることを進めている。市役所などに相談すれば、ヒントを頂けるので、メインは自分たちの発想で、自分たちの地域で取り組んでいかなければならないと思う。

## 委員

この中に JR 福知山線複線化の話がないのは、これとは別物の議論だからか。ここが一番の問題だと思うが、複線化を挙げないのか。

## 事務局

市としても、大きな目標として考えなければならないが、今、配布している議論いただく前提の資料では記述はないが、ここに出ている資料の後ろには、施策としていろいろと課題を取りまとめているので、そういうものも必要な段階においてはお示しできることもあろうかと思う。

## 委員

中心部にいろいろな機能を持ってきて、そこで全てのことができるのがベストではないかという意見を前回も述べたが、考えは変わっていない。公共交通の不便さが緩和できたら、この地域でも暮らせるのではないかなと思う。

高齢社会に対しては青垣が先進地域だと思っており、いかに上手く乗り越えていけるかによって、これからの丹波市のあり方が見えてくるところもあると思う。

## 会長

基本的には、この審議会に与えられている役割は、20年先を想定しながら、様々な機能をどのように再編、再配置していくかということだが、それを考えるために、まずは20年後の生活の質やライフスタイルを考えて、それぞれの地域の暮らし方を想定したうえで、様々な都市機能がどこにどのように配置されれば良いかを考えなければならない。機能については、農業に関する機能や、それ以外の生業に関する機能等も、丹波市が用意すべき様々な機能として見ておく必要があるのではないかなというお話があった。

それから、どのように集約するにせよ、公共交通の問題とセットで提案しなければ、なかなか合意され難いだろうと思う。

一番よく出ていた話が、施設の再配置、再編だけではなく、住民組織の再編、つまり支えていく仕組みを一緒に考えていかなければならないという事である。それとセットでしっかりと議論をまとめていく必要があると思った。

恐らく次回は、この2回の議論を踏まえて、まちづくりビジョンのおよその考え方を事務局より示していただくプロセスになると思うので、それについてはまた事務局より説明いただければと思う。本日の意見については、以上でよろしいか。（一同、了承）

### （3）その他

（特に意見なし）

### （4）閉会

副会長

本日は、それぞれのお立場で熱心にご議論をいただき、誠にありがとうございました。

いろいろな立場によって、いろいろなご意見があると思うし、各自の組織に持ち帰っていただき、そこでの意見をまたここに持って来ていただけると良いのではないかと思います。以上で本審議会を閉じさせていただきます。